

野田 九条通信

2012年 9月 81号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

「平和の集い・のだ 2012」開催！

延べ700人が平和と戦争を真剣に考える



特別講演の秋葉氏と河合氏

8月18・19日野田市中央公民館で開かれた「平和のついで・のだ2012」には、述べ700人の人々が集い、真剣に戦争と平和について考えた。開催趣旨に賛同する団体と個人による実行委員会の主催で、今年で6回目になる。

18日の前広島市長秋葉忠利さんの講演「核のない平和な21世紀を創るための市民と都市の役割」には200人が集まり、熱心に聞き入った。「国」の単位ではなく、「都市」として世界中の市民がパッチワークのように違いを認め繋がること、多様性と寛容が肝心、などに響くお話だった。19日の弁護士河合弘之さんの講演では、昨年3月11日の原発事故以前から浜岡原発などの差止裁判に取り組んできた実績を持つ河合さん、脱原発への重層的な運動が必要と力強く語った。

それに続く「ぶつちやけトーク」には、約1000人が参加、これまでの最高の人数だった。助言者が河合さんということもあり、話題は原発と放射能が多かった。永野平蔵さんの戦争体験の語り、早川千吉朗さんの被爆体験の語りでは貴重な戦争体験に、真剣に耳を傾け、高校生13人と夏雲の会の朗読劇には涙した人も多かった。この他、ロビーと会議室には、原爆被爆の写真や絵、原発や女性史の展示がいっぱいに繰り広げられ、じっくり見入る市民で賑わった。最後に、この日のために結成された子どもを含む合唱団と参加者で平和への祈りを込めて合唱した。今回もたくさんの市民のみなさんのご協力ありがとうございました。

今月の予定

☆野田・九条の会 定例会

9月8日(土) 2時～

会場：けやきのホール集会室

☆野田南地域九条の会 DVD 上映会

9月2日(日) 2時半～

会場：南部梅郷公民館

「貧者の兵器とロボット兵器」

憲法をめぐる動きから

4月に出た自民党改憲草案。改めて見てみましょう。現憲法と比較して見ると「国家」が強調され、国民は国家のためにあるかのような…。あなたはどう考えますか。

自民党案 前文

日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、国民統合の象徴である天皇を戴く国家であつて、国民主権の下、立法、行政及び司法の三権分立に基づいて統治される。我が国は、先の大戦による荒廃や幾多大災害を乗り越えて発展し、今や国際社会において重要な地位を占めており、平和主義の下、諸外国との友好関係を増進し、世界の平和と繁栄に貢献する。日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、基本的人権を尊重するとともに、和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合うて国家を形成する。我々は、自由と規律を重んじ、美しい国土と自然環境を守りつつ、教育や科学技術を振興し、活力ある経済活動を通じて国を成長させる。日本国民は、良き伝統と我々の国家を末永く子孫に継承するため、ここに、この憲法を制定する。

「憲法を日本のチカラに！！」

III 憲法の生きる社会をつくるには、憲法を力に！

1. 自民党から民主党への政権交代という国民的経験から学ぶこと

- 運動で政治は変わる。政権交代をおこせなかったら、新自由主義・構造改革再起動はもっと早かったし、日米同盟も進んでいた。
- 変節を許したのは、運動の力不足と体系的な対策の欠如だった。

2. 大悪政を阻み、構造改革政治に終止符をうつ国民的大運動を展開しよう

- 九条の会運動の継承から発展を
九条の会型運動(九条改悪反対の一点で共同)地域を単位にいろいろな問題に取り組む)には、中高年の人たちの参加が多く、戦争がないのがあたりまえの時代に育ってきた若い世代への拡がり困難。しかし自分たちが立ち上がらなければならないと考えた若い人々たちによる社会運動の新たな波が「原発さよなら集会」に現れている。
- TPP、原発反対、消費税引き上げ反対のそれぞれで、一点合意の大きな輪をつくろう。

3. 戦後最大の改憲を阻む独自の取り組みを急いで、九条の会でなければ出来ないことをやろう

- 改憲案のめざす危険な中身を学習し、その批判を旺盛に。
- 秘密保護法などの危険性も。
- 改めて、九条の会を大きくし、数を増やし、九条の会の中だるみを克服しよう。

4. 軍事大国化、構造改革政治に終止符をうち、憲法9条・25条が生きる社会をめざし、社会の見取り図を示す必要がある

- 憲法25条を生かす雇用の安定と社会保障、教育保障を。
- 福祉を保障し日本経済を立て直す税財政政策を。
- 大企業本位から地域と中小企業が中心の経済政策を。
- 脱原発、原発に代わるエネルギー政策を。私たちの働き方、生活も人間らしいものに変えていく。
- 憲法9条を生かす日本、米軍基地と自衛隊のない日本、東アジアの平和秩序の構築を。

◆ 今こそ「九条の会」の出番！

保守支配層も苛立ち焦っている。次世代につけを残す消費税を止め、TPPを止め、原発を止めれば事態は変わる。

地域を拠点に、憲法をチカラに大きな輪を広げよう！

(野崎 弘子)

インターネット上に「戦場体験史料館」が開館

「あの悲惨さを知る私達は、何も語らずに死んではいけない」と2004年に発足した「戦場体験放映保存の会」では、ボランティアが第二次大戦に従軍した全国の元兵士を訪問し、話を録画。寄せられた手記や絵画なども合わせると計約2,500人の記録が集まっていて、保存の会の事務所(東京都北区)を史料館として来館者に公開してきました。

しかし戦後67年、体験者が九十歳前後となっている状況から、より多くの人に見てもらおうと、終戦記念日の8月15日、以前から構想のあった電子版をたちあげました。野田語り部の会会長の日佐戸輝さんも呼びかけ人のお一人です。今後、野田の会のみなさんへの取材も予定されているそうです。

願わくば、後々の世代の皆さんが、老兵士達の体験談を記録する最後の機会にかけたこの運動の生の史料を、決して過去の遠い悲劇として捨て去るのではなく、**名も無き人々が名も無く殺し合う時代を終わらしめんために、この一館を活用されん事を。** (史料館設立宣言「礎」より)

この思いの結晶が憲法9条のはずです。けれども戦力不保持を謳う9条2項の放棄をねらい、次の選挙を視野に、自民党を筆頭とした改憲派が国会内で勢力を結集させようと動き始めています。「国益」という言葉が軽々しく口にされるようになった今、かつて「国益」の名のもとに戦場に駆り立てられた方たちの体験に耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか。

日頃インターネットを敬遠されている方も、これを機会にお子さん、お孫さんと一緒に「戦場体験史料館・電子版」を訪問してみませんか。

戦場体験史料館・電子版
<http://www.jvvap.jp/>